

多摩市の農地の現在と昔を、写真で比較しながら紹介するシリーズです

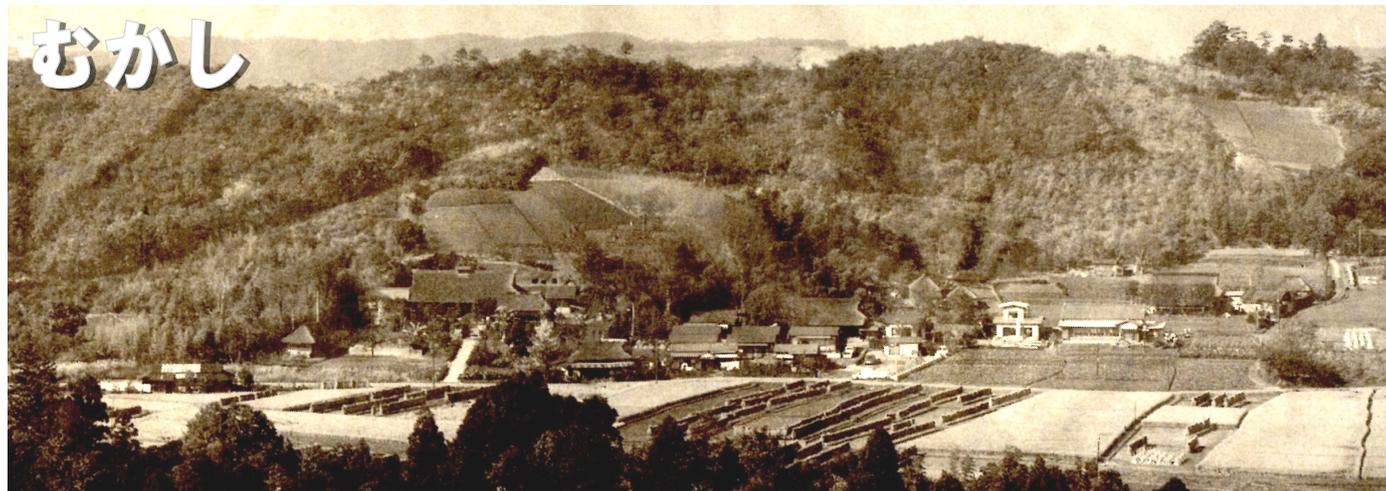


今回の写真は、今から50年以上前、1970年ごろの乞田地区を撮影したものです。

現在の豊ヶ丘北公園のあたりから撮られたもので、乞田にお住まいの伊藤さんからお借りしたものです。

写真下の方に見える田んぼがあるあたりが、現在の多摩ニュータウン通りになります。

伊藤さんにお話を伺うと、現在の多摩ニュータウン通りの道は、当時はまだ砂利道で、乞田川も護岸整備が行われておらず、随分と蛇行していたということでした。写真上に見える山は、



現在、愛宕団地がある場所です。当時は、伊藤さんの家にも田んぼがあり、米作りをしていたと懐かしがっておられましたが、現在は畑になっっています。

写真の田んぼがあるあたりを見に行ってきた。ちようど乞田・貝取ふれあい広場の場所になります。今では畑もほとんど見当たりません。

さらに、写真が撮られた場所を探して、豊ヶ丘北公園の散策路へ足を運びました。見晴らしが良いだろうと思っていましたが、予想に反して木々で鬱蒼(うつそう)としており、写真が撮られたであろう位置に行ってみても、何も見えない森の中でした。

今よりも里山の木々の活用が多かった当時の方が、見晴らしが良かったと感じたのは意外でした。

公園を下った所にある歩道橋で、同じ方向を撮影してみました。市街化が進み建物が多くなっています。地形自体は変



▲深い森が残る公園

わっていないことが分かります。

今回、改めて驚いたのは、田畑が減ってしまったのは、ニュータウン開発の中心地区なので仕方がないものの、公園の中が多摩センター駅のすぐ近くとは思えないほど、深い森になっており、自然そのままの姿が残されている事でした。

今後、これらの景色がどのように変化していくのか、興味が湧いてきました。まったく違うものになっていくのか、それとも変わらない森にふたたび驚かされるのか、うつろいゆく景色を懐かしみつつ、楽しみに待ってみたいと思います。

(農業委員 増田 実生)